TALK & LIVE

OSAKA HYBRID BLUES

——越境される日本、オモロイ大阪を考える——

KIMURA ATSUKI

TALK & LIVE

■第1部

「国際化ってなんやねんトーク」

出演：ゲスト ＆ 河合塾講師

■第2部

「浪花のブルーズマン
木村充揮ライヴ」

出演：木村充揮（"憂歌団"ヴォーカル）
with ヘンリー松山

OSAKA HYBRID BLUES

■日時 1993 8.14 SAT OPEN 4:00PM

■会場 河合塾大阪南校

トーク＆ライヴ
オオサカ・ハイブリッド・ブルーズ

オオサカ・ハイブリッド・シティー「国際化ってなんやねん」

竹国友康（河合塾現代文講師）

ＪＲ環状線・鶴橋から、近鉄線に沿うように東へと歩く。この辺りが在日コリアンの多住地帯であることはよく知られている。焼肉の匂いが鼻を直撃する鶴橋、コリアゆかりのものなら食料品から雑貨まで何でも揃うコリア・タウン「御幸森（みゆきもり）市場」、そしてもう少し足を伸ばせば、ハングル表示の韓国バー・クラブの集中する今里新地。ここには韓国直送の人気テレビ番組のレンタルビデオ店もあり、越境してきたばかりのホステスさんたちが出勤前に立ち寄る。

さまざまな言語が飛びかい、多民族化がはじまった巨大都市・東京の新宿や池袋周辺で見られるのと同じような光景がここにはある。

ボクは、若いころ暮らしたことのある、ロサンジェルスのことを思い出す。ダウンタウンには、リトルトウキョウ。日系人や日本人が集中する街だ。川を越えて少し東へ行けば、メキシコや中南米から来た人びとの多住する、スペイン語圏の街である。メキシコの映画を上映している映画館、スペイン語の新聞、ＦＭ局もある。ダウンタウンを西に行けば、コリア・タウン。北へ行けば、チャイナタウン。南へ行けば、昨年「暴動」の起きた、黒人の街・ワッツ。このようにロサンジェルスは、いく重にも構造化され、豊かに入り組んでおり、その混清し（ハイブリッド）流動する全体こそがロサンジェルスという都市をつくる力学なのだ、と知らされた。

この力学は、日本の都市でも、広く深く作用しはじめているようだ。20世紀末にかけて地球規模で加速化されている、国境を越えて行き来する人々の流れや、瞬時に国境をひとまたぎしてしまう電波情報の交信を、だれも押し止めることはできない。そして人と人とが出会い、情報が交換され、そこから葛藤を含みながらも新たな世界や価値がつぎつぎと生まれ出ている。

まるで「お好み焼き」のように、人も情報もなんでも貪欲に取り入れ、まぜこぜにしてしまう街・ＯＳＡＫＡは、今後さらに多民族都市となっていくだろう。そして、大阪に生きる多くの「在日外国人」は、21世紀をひらく地球の力学を知りぬいている人びとだし、ボクたちとともにＯＳＡＫＡの未来を生きていく隣人なのだと思うのだ。

木村充揮「浪速のブルース、ぼちぼち行こか」

今井　一（ジャーナリスト）

74年に京都を中心にしてブルースブームが巻き起こる。動き始めたばかり、そして二十歳そこそこという若さながら、憂歌団は「拾得」「磔磔」「西部講堂」など、京の“名所”で強烈なライブを披露。瞬く間にその名を全国に馳せた。それから18年、今なお続く不動のメンバーをして、憂歌団はこれまで19枚のアルバムを出し、年間100カ所に及ぶライブをこなし続けている。

「憂歌のライブは、入りがええだけやのうて質がええんよ。　客はほたえる（ふざけて騒ぐ）ときはほたえるけど、聴くときはちゃんと聴くもんね。それから、ほかのバンドの倍ほど酒が出るのも憂歌の特徴やな」

方々の小屋の支配人が異口同音にそう言うとおり、彼らのファンは、大人の、通の渋好みという感じで、ミーハーな人は少ない。ところが、そういった傾向にやや変化がでてきた。

「憂歌は今、転換期に入ってます。これまでの、聴きたい人だけが聴いてくれたらええわっていうスタンスが、一人でも大勢の人に聴いてもらいたいっていうふうに変わりました」

憂歌団の舞台監督、滝本二郎が指摘する演じる側のそういった変化に呼応するように、受け手の側にも動きが生じてきた。例えば、これまで「大きなところ」とはほとんど縁がなかった憂歌団だったのに、今年になってＮＥＣが彼らの『胸が痛い』を、そして住友銀行が『Good time's rollin'』を、テレビＣＭのバックに流している。それからもう一つ。若い女性ファンが急速に増えてきた。憂歌団のファンはこれまで、彼らと同世代の男女がほとんどだったのに、最近ではライブの会場に「初めて」という女の子が詰めかけている。

「なんで女の子が増えてきたんやろね」

そう訴ねると、

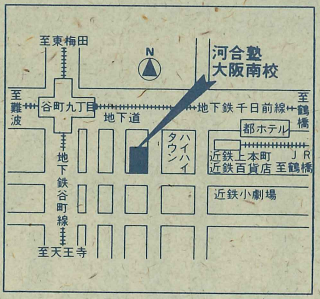
「そら、やっぱりこの顔でんがな」

と、木村は自分のほっぺたをたたいてみせた。

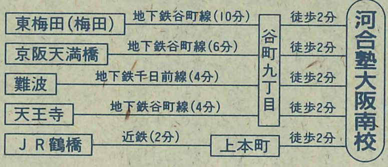
「アエラ」1992年９月15日号より

■木村充揮（kimura atsuki）プロフィール　●1934年４月　母・文福順、韓国済州島より大阪に越境。２カ月後、父・朴仲錫同じく越境。※前年（1933）国際連盟より日本脱退　●1954年　大阪市生野区に生まれる。※７月防衛庁・自衛隊発足　●1970年　大阪市立工芸高校同級生、内田勘太郎と「憂歌団」（ブルース・バンドの邦訳）結成。※３月大阪で日本万国博覧会　●1972年　高校同窓島田和夫、幼なじみ花岡献治「憂歌団」に加わる。※２月連合赤軍「浅間山荘事件」　●1991年『胸が痛い』『Good time's rollin'』がそれぞれNECおよび住友銀行のCMイメージソングとしてヒット　●1993年 河合塾でトーク&ライヴ　※７月自民党一党支配終焉？

▼河合塾大阪南校案内図



河合塾大阪南校
TEL (06)774－2581㈹
〒543 大阪市天王寺区上汐3の1の11



▼参加申し込み方法

・入場無料

※当日、河合塾大阪南校9階にて、受付を行ないます。9階へお集り下さい。

※定員になり次第締切ります。

河合塾